

なかよくし 進んで学び やりとげる



キラリ☆加美っ子

令和4年2月7日
加美小学校だより
発行 校長 梶並裕子

コロナ禍の子ども達！我慢！でも前へ！ 1月は厳しい感染予防対策の中で過ごしました。

12月に学校便りで、修学旅行や子ども達の楽しい活動をお伝えしました。あれからみなさんもお存じの通り、新型コロナウイルスはまたも猛威を奮い、3学期の始業式は放送で行うこととなりました。そして、加美小学校では警戒レベルをすぐに最大にあげ、学年間の接触を回避したり、休み時間の活動を制限したりするなど厳しいルールの中警戒にあたってきました。しかし、それにもかかわらずしだいに岡山県でも感染が拡大し「新型コロナウイルス蔓延防止措置」が出され、国や県から新たな警戒措置への対応が示されました。

どんなに厳しくても、子ども達もしっかり協力してくれています。遊びも工夫しています。

子ども達には、警戒のレベルを上げるたび、校長から校内放送で協力を呼びかけています。いつもですが、どの学年もとても真剣に聞いてくれます。そしてその放送の最後にはいつも同じ呼びかけをします。「どんなことがあっても、この先誰かが感染しても、決して加美小学校では、友達を悪く言ったり、つらくさせることはしません。自分が病気になったときにしてほしいことをしてあげます。」これは、去年の6年生が「ともだちの日」に「座談会」をして、「加美小学校では人権侵害はしない。」と訴えてから、今年の1年生も含め、何度も確認してきたことです。

子ども達はいつも最大限の協力をしてくれます。運動場での遊びも現在制限しており、学年毎に運動場と体育館をローテーションでまわしています。給食のパーテーションをつけての黙食はもちろんのこと、いろいろな行事が、中止になったり形を変えざるを得ない状況にもかかわらず本当によく我慢をし協力してくれています。加美小学校の児童の心の優しさがこのような形ででてきているんだと思うと共に、ご家庭でのしっかりとしたご指導が生きているのだと感じています。ありがとうございます。

毎日かかさず、放課後に消毒。なお一層の力をいれて。

コロナ禍で、加美小学校では、毎日放課後に教職員が学校内の消毒をしています。警戒レベルが上がった今は、放課後教職員がチームに分かれ、さらに厳重に24時間抗菌できるシートを使って、子ども達が触るところを消毒しています。正直コロナ禍では、職員の業務は大幅に増加しております。しかしこれだけは欠かすことができません。保護者の皆様にも風邪の症状が児童にある時には登校を控えていただくなど、多大なご協力をいただき本当にありがとうございます。「できることをできる限りする」互いに協力し合い、この状況が一日でも早く終息を迎えることを祈るばかりです。地域の皆様、保護者の皆様、健康にどうぞお気をつけください。

朝のあいさつ運動 運営委員会が心をこめて



運営・イベント委員会があいさつ運動をしてくれました。マスクをつけるようになって、元気に挨拶することも減ったように感じ、また大きな声をだすことすら警戒する状況にはなりましたが、それでも挨拶は心と心の玄関の扉。笑顔や黙礼など、声だけでなく、心をこめた挨拶をしてくれる子が増えました。地域ではまだまだのようですが、どうか子ども達に声をかけてください。

こんな時こそタブレットが活躍 子ども達の発想には大人はかきません。

1年生 タブレットでお絵かきに挑戦（写真は以前の物ですが、タブレットの操作もあつという間に使いこなせるようになりました。今はドリル学習もしています。

「WITH コロナ」（コロナとともに）という言葉がありますが、子ども達にとってはこのような状況でもとても大切な子ども時代です。かれこれもう2年もこうしてマスクをつけ、コロナ対策とともに過ごしています。そんな中でも最近では、タブレットを使って休み時間を過ごすことも増えてきました。

5年生 ビスケットというアニメーションを作るソフトであつという間にインベーダーゲームのような画面をつくりました。ミサイルにあたると爆発が起きます。



4年生 パソコンを使ったデザインの学習 同じ形の組み合わせはPCは得意です。

本年度の学力調査の結果について

本年度全国学力状況調査が4月に6年生に行われておりましたが、国語算数とも全国平均を大きく上回る結果となりました。子ども達が真摯に授業に取り組むと共に、「自ら学ぶ児童」を意識した「けてぶれ学習」「ミッションかならずポッシブル」などの学習や、本校で取り組んでいる「リーダー育成」で、子ども達が心の成長もともなって学力を伸ばしている結果だと感じています。

岡山県の学力調査が今年度2回ありました。学年に差はありますが、全校として伸びてきている手応えを感じているところです。問題に向かうねばり強さは特に上昇し、最後まであきらめない姿が増えています。また、授業でも自分の意見を言える子が増えてきました。

しかしながら、思考力、文章を書く力など、子ども達が将来に向けて育てなければいけない力にはまだまだ課題があります。学校でもしっかりと検証していきますが、ご家庭でも家庭学習をきちんとやらせることで応援してください。小学校3年までは、「かならずやる」4年生からは「じぶんでやる」を進めていただきたいと思います。大切なことは、「自分」への気づきです。自分の得意なやり方を見つけ学習できる子に育てる子に成長してほしいと考えています。どうぞお子様への声かけをよろしくお願いします。

子どもには一人一人にあった勉強のスタイルがあります！ 中学校になるまでに、自分にあった勉強スタイルを見つけるよう、 保護者の皆様、子ども達にポジティブな声かけをお願いします。



「ビリギャル」という映画がありました。もともと実話をもとにした本ですが、「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」「この奇跡はあなたにも起こる」と本の表紙には書いてあります。

実はこの本を書いた坪田信貴氏は、塾の先生。特別な魔法があったというのではなく、ひとりひとりの個性やタイプに合わせた声かけをして、自分には無理とやる気を失っている生徒に自分なりのやり方で勉強する方法を教えて成果があがったということです。

子ども達ひとりひとり性格がちがいます。兄弟でも同じように育ててもその子その子で違いがありますよね。この子はどうすれば集中するのか、書くことが得意か、聞くことが得意か、何分で集中がきれるか、どのような声かけがいいのか、それを見抜いてやる気を育てたいですね。またくわしくご紹介したいと思います。

